

会報 No.302

キャリア・コンサルタント

2020年（令和2年）2月10日

© キャリア・コンサルタント協同組合

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合
発行責任者：渡邊 健三
〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F
Tel: 03-3256-4167 (代表)
直通電話：営業本部 03-6821-7544
外実事業部 03-6826-7789
Fax: 03-3256-4168

E-mail : [会報編集部] henshu@ccco.jp
[事務局] jimukyoku@ccco.jp
[営業本部] eigyo@ccco.jp
URL : <http://www.occ.or.jp>
<http://www.ccco.jp>
編集長：田中 努
編集者：平松靖弘 影山和子 大野長壽
中野 忠

会報 300 号記念号 (3)

1. 会報 300 号から 400 号へ

理事長 渡邊 健三

2. Wine Tasting の回想

理事 大野 長壽

3. 普段の防災の取組み

監事 福田 秀樹

4. CCK との出会い

組合員 秋葉 大吉

5. 会報 300 号記念に寄せて

編集委員 影山 和子

6. 300 号記念の寄稿について

編集責任者 田中 努

7. 事務局だより

事務局長 平松 靖弘

一粒万倍

1. 会報 300 号から 400 号へ

理事長 渡邊 健三

300 号の発刊おめでとうございます。

300 号達成は、歴代から現在に至るまでの編集局の皆様のご尽力の賜物です。これも CCK の大きな足跡の一つです。編集局の皆様感謝いたします。

思えばよく長続きしたものです。今までに何回寄稿したかは覚えていませんが、編集者の執念を感じます。何と言っても原稿集めに苦勞しますから、こだわりがなければ不可能なことです。山登りといっしょで、途中でほおり投げてしまいたい欲求が何度となくあったかと思いますが、一つのピークに達した感がいたします。

次のピークは 400 号でしょう。しかし、次を目指すためには、従来路線だけでなく創意工夫も必要になるのではないかと思います。例えば、会報誌を紙で配布する時代ではないので、紙面をカラーにするのも一つかと思えます。カラーにすると何となく豪華に、そしてみる意欲を掻き立てる効果があります。編集局に頼るだけでなく、私たち自身が参加意欲を持ち、読まれる会報誌を皆さんとともに作っていきたいと考えます。

また、世代交代も必要ですので、新たな方に参加いただきながら 400 号目指して頑張っていきましょう。

2. Wine Tasting の回想

副理事長 大野 長壽

第1回目のテストィングは2014年2月28日(金)午後5時30分から、勝手幹事は故石井宏一、大野長壽、風巻 融、影山和子、平松靖弘、会費は¥2000円でした。ワインテイスティングは、いろんなワインを飲み比べ、どんなおいしいワインがこの世にあるかを体験し、人生を楽しもうという試みです本来なら本職のソムリエに解説を頼めばよいですが、そんな余裕がないので第1回は司会/チューターは風巻融さんをお願いしてスタートしました。つまみ類はワインの味を損なわないように、果物、チーズ、生ハムのみを用意して、口腔内に残る前に飲んだワインの味をリフレッシュしてくれるものとして定評のあるものを選びました。

風巻さんからは、ボルドーのワインは、およそ2000年も前から作られていた、紀元前56年にローマ人がこの地域を訪れた頃には、既にブドウ畑が存在していたとあります。ワインラベルを「エチケット」と呼びその理由は、ラベルは英語(label レーベル)、エチケットはフランス語(étiquette)になります。エチケットはフランスではもともと、「貼り紙」や「立て札」「荷札」という意味であり、また、フランス革命以前の宮廷では、外部から宮廷を訪れる客人に、とるべき作法が書かれた貼り紙(エチケット)を見せていたが、やがて、いつしか紙だけでなく、礼儀作法そのものもエチケットと呼ぶようになっていった。ボルドーワインの特徴は、メドック地区はカベルネ・ソーヴィニオン主体、サンテミリオン地区、ポムロール地区はメルロ主体のワイン造りが盛んで、これはそれぞれの土壌や気候条件などに起因していること。またボルドーは12世紀から15世紀、約300年にかけてイングランドの支配下に入った話、イギリスに於いてボルドーワインは「クラレット」という特別な呼称を得ている様に、ワインに関して深い関係にある、またサンテミリオンはイングランド王室の御用達ワインであった話、ポムロールのワインは巡礼の道で唯一パリに送られていた。

ボルドー五大シャトーとは全61シャトーのうち、一級格付けとされたのは、「ラフィット・ロートシルト」、「ラトゥール」、「マルゴー」、「オー・ブリオン」のわずかに4つ。5大シャトーはではないですね、シャトー・ムートン・ロートシルトだけはロスチャイルド財閥の財力と影響力、そして努力で1973年に例外的に2級から1級に格上げされましたよ、などワイワイ言いながらワインテイステイングがスタートしました。

テスティングのワインは、1. 白ワイン：ブルゴーニュ辛口シャブリ、2. 赤ワイン：ボルドー左岸、メドック産、3. 赤ワイン：ボルドー右岸、ポムロール、4. 赤ワイン：(ブラインドテスティング)でした。1. の白ワインは日本人愛飲者の多い<Chablis(シャブリ)>、シャルドネ種葡萄100%でした。2と3の赤ワインはボルドーのジロンド川の左岸に位置するメドック産と、ジロンド川の右岸のポムロール産のものを比較しながらそれぞれの特徴を楽しみました。

メドックは11世紀以来ボルドーの代表の地位を認められてきたカベルネソーヴィニオン種の葡萄を主体(>60%)とし、渋みの強いタンニンと、メルローのソフトなタンニンと、豊かなタンニンを持ちつつ酸味とカシスの香りを持つカベルネフランの葡萄を混ぜて精製される。これに対してポムロールは、ソフトで滑らかでありながら濃厚で強いタンニンのメルロ種の葡萄を主体(>70%)、ものによっては(95%)にカベルネフランを加えた、低い酸味の特徴は近年上昇のワインです。皆さん比較して堪能いたしました。

3. 普段の防災の取組み

監事 福田 秀樹

令和元年に関東地方を襲った台風15号、19号の影響による被害は千葉県が甚大で、一部の地域ではまだ復旧が遅れている状態です。千葉県が台風の通過したコースの東側だったために被害が大きかったのですが、通過コースが少し左にずれていたら東京を直撃していたところでした。

台風15号が日本に接近したときのテレビの気象予報では、今回の台風は過去最強クラスであると伝えていましたが、19号が日本に接近したときには、史上最大級と表現したメディアもあったようです。少し前までは台風が日本列島に上陸しても首都圏は意外と被害が少ないことが多く、首都圏に住んでいるひととは台風の影響による被害を軽く見ていたところがあったように思います。

しかし、1917（大正6）年に東京を襲った台風は高潮が市街に流れ込み、約500人が溺死しました。大阪では1934（昭和9）年に室戸台風の被害に遭っており、この台風は上陸時の中心気圧が911ヘクトパスカルという規模で、高潮と強風雨による被害は大阪府だけで1,900人近く、全国では3,000人の死者・行方不明者を出しています。名古屋でも1959年9月の伊勢湾台風の高潮で死者・行方不明者は5,098人。伊勢湾台風の上陸時の中心気圧は929ヘクトパスカル、最大風速は75メートルでした。過去には大きな台風が日本に上陸していたことが分かります。

伊勢湾台風のあと防潮堤整備により高潮による被害は減りましたが、昨年の長野県千曲川の堤防決壊や岡山県の河川の氾濫、各地の土砂崩れなど、大雨や台風の影響による被害は今後もなくなることはないでしょう。

歴史学者の磯田先生によると『日本書紀』にある天武天皇の時代から現代までに、これまで南海トラフ地震は9回から10回はあったそうです。また、だいたい500年に一回ほどの周期で超巨大地震がおこり、超巨大津波をもたらすことがわかってきました。室町時代におきた超巨大地震は、鎌倉大仏の大仏殿を押し流して大仏様を裸にし、砂丘を破壊して淡水湖の浜名湖を海とつなげたそうです。先生曰く、昔の史料から判断すると日本は地震活動期に入っている可能性が高いとのこと。

日本の国土面積は世界の0.28%しかないにもかかわらず、世界でおこったマグニチュード6以上の地震の20.5%は日本でおきているそうで、災害による被害金額も全世界の11.9%となっています。こんなに自然災害の多い日本に住んでいる以上、これからも想定外で記録的な自然災害がおこっても、なんの不思議もありません。

いつ自然災害がやってきても大丈夫なように、平常時に防災の意識を持って準備しておくことが大事です。散歩コースに避難所を入れたり、倒壊リスクの高い古いブロック塀など危険な場所は迂回したり、停電になった時を想定して電気を使わない生活をしてみたり、普段から試してみることはいろいろとありそうです。

4. CCK との出会い

組合員 秋葉 大吉

私は、CCK との出会いを思い出すために、過去の手帳を引っ張り出してきて、改めて調べてみました。最初の出会いは 1993 年、まだキャリア・コンサルタント協会の時です。当時の事務局長は武内さんで、事務所も高田馬場にありました。ただ当時は、初めて事務所を訪れただけで、パソコンもなく、私がお手伝いできることはないなという感想を持ったことを覚えています。

しかし、その年の 9 月には、会員の技術士の石川さんのお手伝いをする事になり、急きょ「技術者の養成・確保に関する調査Ⅱ」という名前の科学技術庁の委託調査報告書の作成に携わることになりました。当時はパソコンも MS-DOS5.0 か Windows3.1 の時代で、まだ一太郎や Lotus1-2-3 が標準的なワープロ・表計算ソフトで、日本では Microsoft Office を使用している人が少数派だった時です。

その頃、ちょうど DELL が日本でパソコンの販売を始めた時期と重なり、当社も DELL の Windows3.1 パソコンを導入したばかりでした。当時の国産パソコンは高価格でしたので、その頃の DELL のパソコンはコストパフォーマンスが優れていました。ワープロは Lotus AmiPro、表計算は 1-2-3 を使用していました。このことも幸いし、アンケート調査の膨大な入力データを集計し、表とグラフを作成することができました。

但し、CCA（当時の略称）として初めてのアンケート集計作業でしたので、現場はひどく混乱していました。どのアンケートが入力済みで、検証が終わっているのか、誰にも判らなくなっていました。入力の担当者は会員以外にも依頼していて、入力内容のデータをフロッピーディスクにコピーして送ってくれる方もいれば、一覧表に印刷して FAX してくる方もいる、というように、入力後の集計作業のやり方を誰も指示していないことが原因でした。集計作業と表とグラ

フの作成は私の担当でしたので、やむなく 93 年の年の瀬に、入力内容のチェックをお願いした手紙に入力内容を読み上げたカセットテープを同梱して、帰省した四国高松の郵便局から各入力担当者の方に発送したのは思い出です。

当時、私は富士通製の FM-R というパソコンを私有していて、それに遊びで音声合成カード（ソフトではなく部品）を取り付けていて、「問 1 の 1 1（トイ イチ ノ イチ イチ）」「問 1 の 2 1」といった合成音声を録音したカセットテープを作成しました。帰省の飛行機の時間に間に合うか、ひやひやした思い出です。集計作業を終わらせると、まず、集計表の作成に入ります。ここで工夫した点が 1 つありました。集計作業は 1-2-3 で行うのですが、集計表は AmiPro で行います。各集計表の値はコピーアンドペーストで複写します。こうすることで、表計算ソフトの表に比べ、格段に表現力の高い集計表が作成できます（用紙を A4 縦に指定してきれいに入る等）。次にグラフを作成するのですが、グラフも AmiPro で作成した表とリンクして AmiPro で作成します。石川さんの粘り強い奮闘の甲斐あって、最終的に白書として 1994 年 3 月、無事刊行されるのですが、その中のほとんどの表とグラフが自身の手で作成したものがそのまま使われました。この後、2 件ほど技術士会関連で表とグラフの作成を行いました。

1995 年 11 月には、CCK で初めて導入されたパソコン NEC PC-98 のセットアップを行いました。まだ高田馬場の事務所でしたが、協同組合に組織が変わった年でした。そのあともパソコンのセットアップを浦和・柏の葉等でお手伝いしました。

ところで、CCK との出会いのきっかけとなった、当社の社長の榎木義彦についての話題も追加しましょう。2000 年 1 月 13 日付の週刊新潮にインタビュー記事が掲載されました。記事には社長の普段の仕事の様がありのままに記載されており、この記事を読んで、社長の仕事ぶりや人を思う優しさを一層知ることができた思い出です。この記事は随分後になってからですが PDF にして保存してありますので、読んでみたいと思われた方はメールで送ります。

今までのことは全て 20 世紀のことで、21 世紀になってからは、CCK で私を見かけることは滅多になくなったはずですが。顔を出すのは困りごとの相談・解決の支援で、つまりは、CCK の会員の皆様の業務が円滑に遂行されている証だと考えています。また、最近は正会員として所属し、東京都福祉保健局の仕事も任されました。システム開発の仕事でしたので、システム利用期間内の保守契約も随意契約で結べました。この仕事の営業を担当して頂いた竹内さんから「やっとな秋葉君にぴったりの仕事を見つけたよ」と勧められ、応札して取れた時はうれしく感じました。CCK には、多種多様な人材が活躍し、協力し合うことによって大きな力を発揮できると実感した瞬間でもあります。ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

5. 会報 300 号記念に寄せて

編集委員 影山 和子

私が C C K の事務局でお手伝いするようになってもう 15 年余り経ちます。

定年退職後、家でブラブラしていた折、栩木さんからの電話「今何している？暇なら事務の手伝いしないか？」とお誘いを受け、「とにかく一度事務所に来てくれ」ということで事務所を訪れました。

栩木さんからキャリア・コンサルタント協同組合の仕組、仕事内容、活動状況等説明を受けちゃっかりお昼をごちそうになってラッキー！

事務所にはパソコンがズラーリと並んでいて難しそうな作業を黙々とされている。言われることも良く理解できないし、パソコンなんて操作できるのか？

退職時我が社の職場でもやっと一人 1 台のパソコンが支給されたが、私は所属事業本部の役員動静をインプットするだけ、とてもパソコンを使いこなしているなんてものではない。そんな私で務まるのかと思っていたら、伝票の仕分けや、ダイレクトメールの封筒あて名書きが出来ればということで事務所に出勤することになりました。

組合としては「女性事務員が初めてなので接客用の茶道具、事務局の人達の茶碗やコップ、流し台の布巾や雑巾、洗剤などそれなりの形を付けて欲しいと田中さんより依頼されました。事務職 46 年をやっているれば大体の事務処理は大丈夫なのですが、会社では営業補佐でしたので経理関係やワードやエクセルはお手上げでした。それでも折角のチャンスですのでパソコンを勉強したいと思い山脇さんに教えて貰いました。六十の手習い、覚えの悪い生徒に優しい山脇さんご自分の仕事も忙しいのにとことん付き合ってくださいました。

今は「経理じまん」を使って C C K や千代田ビルテクノスの経理処理のインプット、「ジブリ君」を使って SMBC 銀行の引き落とし作業のインプット、エクセルを使って下斗米さんの手伝い等パソコンを稼働させています。

でも一番のお役立ちは新年会やワインテイストのおつまみを作るスナックの料理係の仕事では？と思っています・・・

「会報」の発行も私の仕事の一つになりました。初めはコピーとセットだけでしたが、その内編集にも携わることになり、300 号を迎えた今は半分（150 号分）私もかかわっていたのだと感慨深いものがあります。

会報を毎月発行するということは大変勉強になりました。
寄稿された記事の図表や写真の挿入、全体のバランスを考慮することや字面を合わせるなど、よくわからない事や出来ないことは事務所に人に聞いたり手伝ってもらいました。自分でもパソコン教室に行ったり、中央会主催の講習会で講習を受けて努力を重ねましたがすぐに忘れてしまうのが・・・
新しいことが出来たり覚えたり、解らない事が解決するのは楽しいことです。これからも出来る限り勉強したいと思っています。ボケ防止です

15年前の皆さんは血気盛ん、大きな声で意見を戦わせておられましたが最近
は声を荒立てることもなく体調の事や病気の話がおおくなりました。
私も体力の衰えを感じます。同級生が倒れたり、亡くなったりする話を聞くと何
とかせねばと思いました。

昨年「終活」の第1歩を踏出しました。断捨離をして荷物を半分にしました。
父の郷里にある墓仕舞いもしました。NPO 東京都中高年福祉推進員協会の講習会
に参加して終活ノートも用意しました。(未だ内容を記入していませんが・・・)

今は、身の周りを出来る限りスリムにしたら、絵のモチーフを探して旅をした
いと思っています。重い荷物をもって動ける今しか出来ないと思います。
20年前から本格的にはじめた透明水彩画がやっと思いうように描けるようにな
ってきました。まだまだ満足できる作品は描けませんが、森や水辺、山や海辺、
光や雨、自然の中で感じる全てを私が描いた絵で見る人が感じてもらえるよう
なそんな作品が出来ればと願っております。

次回の記念号まで携われとは思えませんが、300号記念の今、来し方を振り返
り、これからの生き方に思いを巡らせております。

6. 300号記念の寄稿について

編集責任者 田中 努

CCKの会報は、時には欠巻がありましたが、平成6年(1994年)から25年
以上に亘って発行され、昨年12月号をもって300号に達しました。これは組合
員・賛助会員(協会員CCA)・その他関係者の手厚いご協力の賜と感謝してお
り、厚くお礼を申し上げます。しかし、300号が到達点ではありません。これは
単なる通過点であり、500号、1000号と続くことを願っております。

ＣＣＫは任意団体の**キャリア・コンサルタント協会（ＣＣＡ）**として平成５年（１９９３年）４月にスタートしました。コンサルタント業は法人ではなく個人の集団であり協同組合の組織には馴染まないと、当時の通商産業省が設立に難色を示す中、協会員有志の努力によって、平成７年８月に個人中心の「コンサルタント事業者」の集まりである**キャリア・コンサルタント協同組合（ＣＣＫ）**の設立・登記に漕ぎ付けました。その後、主体はＣＣＡから徐々にＣＣＫへと移行し、協会員は組合の賛助会員となりました。現在は法人としての協同組合の下で各種事業を展開しています。

特に**外国人人材受入事業部**は現在 16 社、150 人以上の外国人技能実習生を受け入れており、今後も組合の柱になります。また**営業本部**も、官公庁の入札事業に力を入れており、成果が実ってきました。ＢＣセミナー主体の**研修事業部**も確実に事業を伸ばしています。これらからのＣＣＫはまだまだ伸び代があると思われれます。

高木裕昭氏から平成 26 年（2014 年）5 月より編集責任者として引き継ぎ、早やくも 6 年近くが経過し、内容もマンネリ化してきました。事業承継ではありませんが、そろそろ後継者に引き継ぐ時期になりました。どなたか編集を引き継いでいただけると有難いのですが？

今回の会報 300 号記念の寄稿を関係者をお願いしましたが、皆様方もお忙しい中多くの原稿を頂き、特集として 3 か月に亘って掲載することが出来ました。組合員以外でも、組合に多少でも関係のある方の寄稿もあり、かなり充実したものになりました。今回の寄稿のみではなく、また 300 号に掲載できなかった方々も、今後の会報への寄稿を是非お願いします。

ご協力、有難うございました！今後とも会報を可愛がって下さい。

7. 事務局だより

事務局 田中 努

●地球の温暖化が騒がれている中で、今年も立春も過ぎ初春の季節を迎えました。中国の武漢市から始まった新型「コロナウイルス」による肺炎が、地球全般に広がっています。地球上での人々の移動が、我が国の水際作戦では塞ぎようが無くなったようです。これから黄砂の季節を迎えて風に乗って細菌が飛来するの心配です。店頭からマスクの棚が空になっていますが、ご用意の程如何でしょうか？

●先般の臨時総会で承認された定款変更の件①事業の追加（特定技能外国人登録支援事業）②組合員の資格（老人福祉・介護事業、その他の社会保険・社会福祉）については官公庁に対する申請のハードルが高く、受理してもらえませんでした。今後は①についてのみ、東京都中小団体中央会の指導を受けながら申請をすることにしました。また将来は職業紹介事業も当組合の事業に加えるべく準備をする必要があると思われれます。

●あと1か月半で令和元年度の決算日が近づいてきました。その内容の予測ですが、今期も多少の利益を計上できそうです。期末になって営業本部の官公庁への入札案件が実を結んで来ましたし、外国人人材受入事業も16社150人以上と順調に実績を積み上げております。それに研修事業部もBCセミナーを中心に拡大を図っています。

●マイデスク事業部の801号室で組合員の移動がありました。それはリーンテックの上畑さんとグローイングの荻野さんが入れ替わりしました。上畑さんは事業の発展でダブルの貸机が必要になりました。これで空席はクルドイオンの宍倉さんの隣の7番Aのみとなりました。また相補プロジェクトの本間さんの電話がフォーバルの回線に加入し、6826-4447の番号になりました。

●事務局長の平松靖弘さんが2月3日（月）昼頃、に救急車で「保谷厚生病院」に入院しました。朝方、「熱が出たので今日は休む」と連絡がありましたが、胃からの出血があり、救急車を呼びました。症状は神経性胃腸炎と診断され、ストレスが溜まっていたようです。幸い9日（日）に退院され、自宅療養の後14日（金）から事務所に出勤する予定です。お大事にして下さい。

●2月の行事等の予定（2/10現在）

- 5日（水）事業部長会議（10：30）
- 10日（月）運営会議（16：00）
- 12日（水）営業担当者会議（10：30）
- 14日（金）ドラッカー学会（18：00）
- 18日（火）CCK理事会（13：00）
- 19日（水）営業担当者会議（10：30）
- 23日（日）荻窪研究会（14：00）
- 26日（水）営業担当者会議（10：30）

●3月の行事等の予定（2/10現在）

- 4日（水）事業部長会議（10：30）
- 6日（金）富士通クリエイティブクラブ（13：00）
- 10日（火）運営会議（16：00） 中推協（17：00）

- 11日（水）営業担当者会議（10：30）
- 12日（木）中推協（17：00）
- 13日（金）ドラッカー学会（18：00）
- 15日（日）中推協（10：00～19：00）
- 16日（月）中推協（18：00）
- 17日（火）CCK 理事会（13：00）、研修の集（16：00～19：00）
- 18日（水）営業担当者会議（10：30）
- 22日（日）荻窪研究会（14：00）
- 25日（水）営業担当者会議（10：30）
- 26日（木）中推協（17：30）

一粒万倍

▼またまた映画のようなシーンが現れました。それは中国湖北省の武漢市から広まった新型「コロナウイルス」という細菌性のウイルスによる「肺炎」です。一部では、中国が人工的に培養していたこの細菌を誤って世の中に流出してしまったとの噂があります。中国が武漢だけで抑え込もうとして、報道を控えたとの話もありましたが、福島原発に続いて米国の迅速な行動は、米国の情勢把握能力の優れたことに痛感しました。検査が進行するに従い陽性の人が増えており、ワクチンの登場が待たれています。東京オリ・パラに影響が心配されます。

▼相模原市の「津久井やまゆり園」で45人が殺傷された事件での裁判員裁判が開始されました。事件発生時から被害者が障害者故に名前は匿名化されていました。匿名報道に妥当性があるのか、国民の「知る権利」が侵されているとか、色々と議論されています。障害者は事件の加害者の場合を含めてどこまで匿名化が必要なのか、報道する側の立場も含め考える必要があります。

▼英国が1月31日をもってヨーロッパ連合（EU）から初めての離脱をし、歴史的な節目を迎えました。英国はもともとユーロ（通貨）には参加せずポンドを貨幣の単位としていました。以前、ポンドはドルでなく世界の基軸通貨でした。かつては、世界の七つの海を席卷した Union Jack は Great Britain として誇りあるものでしたが、最近では little England になってしまいました。ただ同盟国である米国は今回の離脱について、英国政府の決定を支持しています。この離脱によりEUの地理的の中心点所謂ヘソは南東に50キロ移動しました。今後英国の離脱はヨーロッパのみならず世界にどのような影響が出て来るのか、注視する必要があります。

▼今冬は地球温暖化の影響か、雪国やスキー場は雪不足で悩んでいましたが、漸く西高東低の冬型の気圧配置になり、寒さが訪れたようです。雪のないスキー場はハゲ山で殺風景なもので、リフトやゴンドラが寂しそうに留まっています。寒波の影響で関東地方も軒並み氷点下を記録し、札幌の「雪まつり」も滞りなく開催され、網走に流氷も到達しました。やはり冬には寒さと雪景色が似合いますね！

2020.02.10

会 報 原 稿 募 集

300号記念特集号は今回をもって終了となりましたが、3月号以降の原稿については皆様各位の投稿を歓迎します。300号記念に間に合わなかった方々や、「CCCKのこれから」「CCCKの改善点」「CCCKプロジェクトについて」等々、ちょっと気になったこと、地域活動や趣味の話、テーマは何でもOKです。また、エッセイなども歓迎します。

皆様、是非是非原稿をお寄せ下さい。

原稿の形式 A4の用紙にワードで作成のファイル
1行あたり40文字、1ページ40行
文字サイズ 12ポイント
書体はMS明朝

宛て先 CCCK会報編集室

メールアドレス：henshu@ccco.jp